

2012年 7月 7日
NPO法人 森を再生する会

水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

— 目 次 —

‘12春の植樹祭メッセージ・1P	春の植樹祭・・・・・・・・・・ 5P
‘12春の植樹祭を終えて・・・2P	春の植樹祭を終えて・・・・・・・・ 6P
植樹祭に参加して・・・・・・・・3P	春の植樹祭アンケート・・・・・・・・ 8P
2012年春の植樹祭・・・・・・・・4P	コンクリートのダムより緑のダムを！・10P



‘12 春の植樹祭メッセージ！

今年も皆様のご協力で、ここ作手で春の植樹祭を開催することができました。

今年、春先に雨が降りましたが、矢作川ダムや羽布ダムの貯水量は減り続け、平成6年の渇水の年と同じ兆候が見られます。田植えが終わり水田に水が満々と張られる時期になると農業用水は不足する事態になりそうです。

もともと日本はモンスーン地帯にあり、豊富な水が雨によってもたらされてきました。雨水は豊かな広葉樹の森で蓄えられ、徐々に腐葉土のフィルターを通して途切れることなく生き物の命を育む水として注がれてきました。



ところが水源地の森は荒れ、緑のダムの機能は著しく低下したため、いくらダムを作っても水不足がおきるようになりました。このことは山に入ってお年寄りに聞けばすぐ分かります。古老たちは異口同音に「わしらの子供のころは川の水かさが今より30センチは高かった。魚もたくさん取れた。」と答えます。

私たちは荒れた水源の森を再生し後世に残したいと決意し、同じ思いの仲間が集まり、間伐をし、土地本来の木を植えてきました。小さな取り組みですが、日本の荒れた山がいつの日か、豊かな水源の森として再生するよう、大きな望みを持って歩んできました。

平成16年から始めたこの取り組みを支えていただきました宮脇昭先生、藤原一繪先生、エスペックミック株式会社の皆様にお礼申し上げます。また、間伐、植樹祭の準備に手弁当で汗を流していただきました会員の皆様、植樹祭に参加していただきました一般市民の皆様にお礼申し上げます。

2012. 5. 27

NPO森を再生する会

国土緑化推進機構助成事業

‘12春の植樹祭を終えて

神谷輝幸

恒例となった春の植樹祭は、近年には珍しく晴天に恵まれ、5月28日、新城市作手の山林(会員である小河智彦さん所有)で無事行なうことができました。

現地はスギ・ヒノキ人工林で、手入れされていない荒れた山です。毎月1回の定例活動日にはボランティア会員が集まり、安全第一をモットーに楽しく作業を進めてきました。毎回10数名の常連で作業を進めますので、回を重ねるごとに手際もよくなり、1日で20本ほどの間伐ができるようになりました。強間伐することにより光を入れ、広葉樹を植え、水源の森が再生すること



を夢見て作業を行っています。こうした植樹祭の下準備作業も楽しい良い思い出となりました。特に、植樹祭前日は、準備を終えてから講師の藤原一繪先生を囲んで懇親会ができたのも本当に楽しい思い出となりました。

この日の参加者は 91 名で、安城碧海看護専門学校や常連の安城学園生徒等若い人が目立ち、家族連れも参加してアカガシ、ハウノキ、ヤマザクラなど 18 種類 630 本を、心を込めて植えました。

今回の植樹祭は、生態学者の横浜国立大学名誉教授の藤原一繪先生をお招きし、現地で直接指導してくださいました。汗をかいた後は、五平餅と山菜おこわ、会員手作りの豚汁・猪汁に舌鼓を打ちました。五平餅を乗せる器には、山から取ってきたハウノキの葉を使い、野趣溢れる自然の恵みを味わうことができました。

食事を済ませ、午後は、藤原一繪先生から水源の森づくりについて講演をしていただきました。私たちが植樹している様子を先生自身がカメラに収めた映像をパワーポイントで示しながら臨場感豊かに植樹祭を再現しながら話をされた技に感心しました。「森は海の恋人」の著者畠山重篤さんの取り組みを紹介しながら水源の森は海も豊かにすることなど私たちの取り組みが意義のあるものであることをわかりやすく説明され勇気付けられました。

これまで森を再生する会では、平成 16 年以來、設楽町、長野県開田高原、東浦町、新城市作手等で毎年春・秋の 2 回植樹祭を行い、今年までに合計 9,370 本を植えました。これまでよく続いてきたものだと、感慨深いものがあります。

来年は 1 万本達成記念植樹を計画したいと思います。皆さんの熱意とご協力に心より感謝申し上げます。



「植樹祭に参加して」

環境ボランティアグループ

安城市医師会安城碧海看護専門学校

リーダー 赤松里香

メンバー 池田沙江夏・梅本由香・神谷侑子・近藤光・榊原志織・鈴木優子
都築果歩・仁枝久美(和菜)・松村沙紀・山本結加里



私達環境ボランティアのメンバーは今回、春の植樹祭に参加しました。

今回の開催地は、作手の山で、木と木に囲まれた自然に溢れる地であり、空気がとても澄んで、綺麗な水が流れている場所でした。植樹場所の頂上まで上がり、1 人約 6 本の苗を植えました。「森を再生する会」の方々に鍬で苗を植える穴を掘り、苗を

水につけて水分を含ませるなどの下準備をしてもらいました。そのため、私達は植樹に専念することができました。

今回の植樹は、私達環境ボランティアにとって三回目となる植樹でした。1回目の植樹では、植樹を行う意味もわからないまま与えられた苗を、空いている穴にただ植えていくだけの作業でした。しかし、2回目の参加の際の中根先生、3回目の参加で藤原先生の講義を聞き、植樹はただ木を植えているだけではなく、森の水、水源を守っているのだと知りました。その昔、杉や檜がお金になるということで、広葉樹を伐採し針葉樹を増やしてきた。そのため、今の日本の山は、大半が人工で作られた針葉樹林帯が大半であること。針葉樹林は根があまりしっかりしていないために、針葉樹林帯の多くで、雨などによる土砂崩れが起きてしまうことを学び、森を再生する会は、そんな針葉樹林が多い森を、広葉樹で自然が織りなす森に変えていくこと。さらに、それが森の水源を守り自然のダムをつくること。雨による土砂崩れを防止することを目的に活動していることを知りました。



私達は、植樹祭を通じて改めて森の大切さ、自然のダムの大切さを知ることが出来ました。森があるから、自然のダムができる。自然のダムは、私達が生きるために必要な食物を育てることとなり、海にも栄養をもたらしていること。自然のダムがあるから、私たちは生きていける。植樹は、この社会では、ほんの小さな変化かもしれませんが、小さな力が重なり合うと、大きな変化になると思っています。

今後も植樹の体験や、植樹のための準備に参加し、私達1人1人が持っている小さな力を集め、少しでも大きな変化となるように活動をしていきたいと思っています。

自然について、まだまだ勉強不足な部分も多いので、より自然について学びを深めて行きたいと思っています。

2012年春の植樹祭

NPO法人森を再生する会 野村幸示

春の植樹祭が、絶好の好天に恵まれ作手町巴山間部にて5月27日開催されました。私は早朝バス配車組でしたが、バスは3台で定員75名乗車ですが参加者が85名で完全オーバーでしたが、前日講師送迎組、自家用車組などがあり、各車18名という丁度良い乗車となりました。出発間際まで到着されない参加がありやきもきました。集合場所が分からないという転送から携帯への連絡が有り電話での誘導となりました。信号からほんの数十mが分からず迷っておられるようでした。焦っていると見えるものも見えなくなるものですね。



森を再生する会は、これまで何度も植樹祭を開催しており

ますが、集合場所の駐車場の問題があり公共施設の駐車がその事業と重なった場合迷惑となり一昨年より安城医師会館でお借りするようになりました。休日は使っていないということで大変ありがたく使用させていただいております。

道中は1時間半です、途中トイレ休憩を入れて9時半に現地到着。最初に記念撮影をし、開会式、会長挨拶、生態学者 藤原一絵先生並びに学術博士吉野知明氏に苗の種類、植え方などを教えていただき、その後恒例の苗の運搬作業に入りました。今回は山裾でしたので20本入りのパレットでの運搬で楽かなと思いましたが、意外としんどかったです。皆さんご



苦労様でした。今回の植樹は間伐した空き地で、草1本生えていないところを40cm間隔の千鳥状に常緑樹と落葉樹を交互に植えることにしました。630本を30分足らずで植えてしまいましたが、半年間月1ペースで1日4時間を6回～7回間伐作業をしてもこんなもんですかね…。その後、倒木に腰掛け藤原先生を囲みお話をさせていただきました。

皆さんの座った草の生えていないお尻の下には微生物が10万匹いますが草の生えているところでは10億匹いますということです。それらの微生物が落ち葉を食べて有益な養分を作ってくれる、そんな生態系豊かな森にしましょう。ドングリを食べに動物もくるようになる生物多様性に富んだ豊かな森にしましょう。

五平餅と山菜おこわの昼食後、藤原先生からは、生態系から滋養に富んだ水が作られる自然の回帰システムの講演を頂き、参加者一同自然の力強さに感慨深いものが有りました。

生命の源である水源の森を、植物の力を借りて森林を再生する林層転換を中心とした活動を始めたNPO法人です。地球温暖化防止活動並びに動物たちと共存できる奥山保全活動は私たちのできる最大の社会貢献であり、そんな事業活動を実施いたします。地球環境再生のためにも、皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

春の植樹祭

三河のホビット (k. n)

真夏日もようの植樹祭
老若男女うちそろい
開会式も盛大に
講師2名とあいま見え
パレット抱えさあ行くぞ
先は近いが腕だるい
汗で体はびっしょびしょ
パンツもびっしょびしょ



山に登りて穴掘りだ
トング両手に えっこらしよ
なるべく深く よっこらしよ
千鳥模様に どっこらしよ
今日は若い子いっぱいだ
疲れも見せずがんばれや
お土産あるよ木のお皿

楽しく笑顔で助け合い
綺麗に苗が並んだよ
みんな丈夫に育ててね
ドングリたくさん実のらせてね
あとは楽しい食事祭
山菜おこわに豚汁だ
五平餅も付けまして
気分満タンお腹も満タン
話しも弾み知識も満タン

講師の先生ありがとう
参加意欲も満タンに
秋もガンバレ植樹祭
準備ばんたんまっててね
皆さんご苦労様でした



春の植樹祭を終えて

豊橋 長澤 勇吉

準備に準備を重ねた植樹祭、昨年春は作手、秋は東浦でしたので一年ぶりの、行事になります。5月27日毎回雨が降る印象があるが今年は晴れました。5月末ですが五月晴れか、山の緑濃く美しい季節。特にここは、山のほうから清流が流れてくる山と湖両方に霧が立ち緑が目にやさしい。

安城看護専門学校8:00集合。3台のマイクロバスに分乗して作手の森へ向かっている時、こちら植樹会場では、お客様を迎える準備の苗木の世話。昨日エスベックミックの吉野さんが、車で昼前に届けてくれた640本を吉野氏の指導で、種類が重ならないよう30ケースに選り分けを丁寧に実施しました。朝 8:00 ケースを沼に浸して、



水分補強。会が始まる前、本日のゲスト藤原先生を吉野氏の案内で、山の上へ。そして今までの植樹の苗木の成長状態確認や、隣接する隣の樹木の調査を実施。

10:00前マイクロバス到着、若い女性が多い。大崎さんの学校の生徒達。さっそく記念写真を撮りセレモニー開始。神谷理事長あいさつ、吉野氏植樹説明そして今回メインゲスト藤原先生の挨拶。参加者の協力を得て苗木の運搬。今回は 男性陣が少ないので女性の方にも重たいのに運んでもらいました。ありがとうございました。現場にて再度藤原先生より、植樹の注意すべき事として ①足元の安全確保を優先 ②千鳥植えと落葉と常葉の隣り合わせ ③陽の当たる地面の空白な所障害物(笹)の生えていない所へ植栽。

作業開始、手持ちスコップ もしくは男性スタッフつるはしで穴掘り、スムーズに進行、植樹終了。植えた苗木を背景に山の上で記念写真撮影。一息ついて下山。ここでおみやげの第一弾「座いす」にできるように「檜の丸太を切った物」皮を本人に剥いてもらい清流で洗いきれいにしてお持ち帰りいただく。好評。

昼の食事会場ここで風流な心配り。昨年五平もちのタレが床に落ちたり、テーブル上に置場に困る問題があったので、今年は「ホウノキの葉」をお皿代わりに用意し喜んでもらえた。緑濃く大きめの葉を選びました。そして毎回皆様お楽しみの汁。今回も加藤由紀子さんより猪肉の差し入れがされ、二種類の鍋が用意できそれぞれの味を楽しんでもらえた。そして目に見えない「功績」誉めてやってください。今回の汁は見事なくらい適量。いつもどうしても多目に作ってしましますが、今回はピッタリ賞。ダテに長く主婦をやっている訳ではないと、自慢する声が聞こえてくるような「亀の甲より、年を経た主婦」おいしい食事の後ここでおみやげ第二弾「檜の輪切り」コースターやナベ敷きなどに利用を、またはお風呂に入れて檜風呂を味わう事もできる。おおきさ大小たくさん用意され、よりどりみどりの感。檜の匂いがなんともいえないセラピー、心が癒されます。



食後講演会始まる。最初神谷理事長より原発反対署名運動の話、そして藤原先生の講演、聞き手が森が好き山が好きの人達、熱心に聞かせてもらいました。日頃学生さんを相手にしているのですが、今回年令がまちまちいろんな構成の参加者にわかりやすい話をさせていただきました。ありがとうございました。その後、神谷理事長より根羽村の自然林地購入の意義の話しをされ、最後に今まで一本一本の植樹が総数積み重ねで、一万本になる記念すべき本数となりますので、来年仕上げとしてここ作手での記念植樹を約束して、植樹祭終了。



少し休憩して、マイクロバス退出。何か皆さんにここにこし

ていたのはなんだろう。またアンケート用紙にて参加者と会話ができる楽しみです。次の植樹祭の準備がすぐ始まりますが、やらなければならない事があります。苗木の保護、鹿が若芽を食べ、木の成長の妨げになる、やや大掛かりな作業になりますが、ネット張り(魚網が準備されております)を実施するスタッフ一同、又心地よい汗をかく決意を固めております。

春の植樹祭アンケート結果(24年5月27日作手)

参加者数 85 名 / アンケート回答者数 43 名

回収率が以前より少ないが、他の事業と重なっていいて昼食時に帰えられた方、当植樹祭主催者側などを抜いた数。

1. この取り組みに参加する前と比べ、森と緑の重要性について理解が深まりましたか？

- ① 大変深まった 35 名
- ② 少し深まった 7 名
- ③ あまり深まらなかった 0 名
- ④ 無回答 1 名



(理由)

- ・何もないところに緑を植えたから。
- ・木を植えたから。
- ・植樹をさせてもらったから。
- ・先生講義による。
- ・大雨による山くずれ、洪水の被害が最近あります。この現象は、森の重要性を警告していると思います。
- ・先生の話を書いたので。
- ・講義が分かりやすかったから。
- ・空気の良い事が良く判る。
- ・樹木に対する関心以前に増して深まり、自分が家で植樹するにも役立ちます。
- ・水源を守ることにについて回覧板などを色々なメディアを使ってPRすれば浸透していくのではないのでしょうか。
- ・若い女性やお母さんが多く参加したことがよかった。
- ・藤原先生の解り易い説明が良かったと思います。
- ・大切な森は、皆で守らなければと思います。友人にも話していかないと一層思ってます。
- ・森にささえられていて、生かされているので、大切にしないといけないと思います。
- ・先生による説明があり、よく理解できた。
- ・自分たちで木を植えるのは大切で、それにふれることができた。

2. 7月中旬頃、あいち森づくり助成事業として設楽町「水源の森」において中根周歩先生を講師に「巻き枯らし間伐」体験を行う予定ですが、参加したいですか？

- ① 参加したい 15名
- ② 参加したくない 20名
- ③ 無回答 8名

参加したくない、無回答の中には、都合が付かない、体力的に無理という回答あり

3. その他、ご自由に意見や感想をお聞かせ下さい。

- ・森の重要性について考えさせられた。
- ・時期的に落葉樹と植え付けるにはきびしい時期と考えます。植付後の散水は必要と考えます。
- ・これからも環境活動をお願いします。
- ・開会式に大学の先生のお話を聞くことができよかったです。苗木をかごに入れて運んだのが休み休みして運んだけれど少しこたえた。前のように手渡しの方が自分としてはいいかと思います。大学の先生の話が聞かせてもらったことはいい企画だったと思います。
- ・いい空気吸えて気持ち良かったです。落葉樹がすくすく育つとうれしいです。スタッフの方々に感謝の念で一杯です。
- ・4回参加させて頂き根づいている事をみて、頑張る気持ちが沸きます。次回の参加を楽しみにしております。
- ・食事の後、天気が良いと少し外を散策すると良いなと思いました。
- ・森も畑も土作りがいかに大切か理解できた。
- 食事の後も、もっと自然にふれていたい。たまに来たのだから。(晴れた日は特に)たとえば近くを散歩とか…。
- ・森には色々な種類の木があった方がいいことがわかりました。森は海の恋人、母という言葉が心に残りました。森を大切にしたいと思いました。

4. スタッフ感想

- ・今回は、若い方が大勢いましたので、今後につなげることが出来ればと思いました。
- ・巻き枯らし間伐とか、間伐作業はあまり参加意欲がないように見受けられました。
- ・他会の植樹祭などに参加して、なにか楽しいアトラクションとか、イベントを盛り上げるノウハウを取り込まなければと思いました。



コンクリートのダムより緑のダムを！

今年は渇水の年？

今年は、5月の雨量が少なくダムの貯水量が減少し、水不足が心配されています。田植えの季節を迎えた農家にはピンチでした。統計によれば、平成6年の大渇水と同じ傾向が続き、6月には矢作ダムや羽布ダムは40%台になりましたので、水田に引く明治用水は3日通水、3日断水の節水に入りました。

今年、地区の土木委員である私は、明治用水からの要請で受け持ちの用水路の止水弁を開けたり閉めたりと大変でした。あわせて、断水時に田植えをする農家のために緊急揚水ポンプを作動させる等の役目もあり、農家にとって水が以下に大切かを肌で感じる事ができました。

どちらのダムが重要？

今年経験したこの水不足の話をして「やっぱりダムを作らなければネー！」と応じる人がいました。今話題になっている設楽ダムの話かと一瞬ドキッとしました。矢作ダムは土砂で埋まり、貯水量が極端に減って大きな問題を抱えコンクリートのダムは水確保の根本的な解決にはなりません。流域の生態系も貧弱なものに変えてしまいます。必要なことは緑のダムを作ることです。なぜなら、昭和30年代から始まった拡大造林政策で山のとっぺんまでスギ・ヒノキが植えられましたが、手入れされていないので山の貯水能力が極端に落ちているからです。

標高800メートル以上は自然林に！

そこで、私たちは標高800メートル以上の山を自然林に戻し、生態系豊かな水源の森として子孫に永遠に残していこうという運動を始めました。800メートル以下のスギ・ヒノキ林も適正に間伐して針葉樹・広葉樹混交林にすれば、建築材を育てながら緑のダムの山に復活できるのです。

(文責:神谷輝幸)

* 寄付金の受付 *

次の方から寄付金をいただきました。

- | | |
|--------------|-----|
| ・神谷守様 | 3千円 |
| ・神谷俊治様 | 1万円 |
| ・(株)丸山組丸山光夫様 | 5万円 |
| ・遠山松枝様 | 2万円 |

ありがとうございました。